民報 あばしり
NO.1242
11月10日号
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL四三一－四四五八
FAX四三一－四四五七

2019年度議会報告会
桂陽高校2年生と出前授業

11月5日、網走市議会は、議会報告会として、網走桂陽高校2年生に市議会のことを身近に感じ、主権者としての意識を高め、若者のアイデアを聞く機会として出前授業「議会報告会兼意見交換会」を行いました。

市議会から議会の役割を説明した後、「どんな選挙だったら投票に行きますか？」「どうしたら若者が投票にいきますか？」と質問。５つのグループに分かれて、アイデアを出しあいました。

「選挙カーとヤキイモ屋が一緒なら」「カラオケ屋で歌の合間に選挙のことを知らせる」「網走市を都会のようにしてくれたら」「議会が身近に感じられたら」「選挙に行くとプリカがもらえる」「○×で選べる楽しい選挙」「バスの便を増やして高校生でも選挙に行きやすく」「スマホで投票」などアイデアが出されました。

わずか50分の交流でしたが、高校生に市議会のことを身近に感じてもらえる貴重な時間となりました。

「国会かけある記」
安倍首相の「任命責任」を問う

11月4日　参議院議員　岩渕　友

政治とカネの問題で、６日間に２人の大臣が辞任をする異常事態が起きています。問題大臣はこの二人だけではありません。大学入試への英語民間試験の導入をめぐって、教育の機会均等を否定する「身の丈」発言を行った文科大臣、「雨男」発言の防衛大臣など憲法も国民もないがしろにされています。安倍首相は「任命責任」があると言うだけで、その責任をどうするのかも説明を一切果たしていません。

１日、国会では野党緊急全議員集会で、そろって怒りの声をあげました。怒りの声がひろがるなかで、英語民間試験の導入が延期。高校生や受験生、先生たちの声が政治を動かしました。衆議院でも参議院でも予算委員会での集中審議が行われます。野党が結束して、徹底的に真相究明、首相の責任を究明していきます。

応援をする岩渕 友 氏

10日投開票の福島県議選の応援に連日入っています。安倍政権への怒りが次々寄せられます。相次ぐ台風・大雨で甚大な被害が発生したいわき市で、一人の方がじっと訴えを聞いてくれ、声をかけると「台風で家が浸水した。生活再建は重大な問題だが、今の政治はどうなっているのか。大臣が次々辞めていく。こんな政治は我慢ならない。安倍政権を終わらせてほしい」と話してくれました。

さらに被災者にも重くのしかかる消費税増税の負担に悲鳴があがっています。市民と野党の共闘をさらに前へ。野党がともに新しい政権を。政治を変えるために、引き続き国会でも奮闘したいと思います。

拡声器でどこ？奮戦メモ！

文化の日の11月3日、網走市文化賞の贈呈式があり、出席させていただきました。この４年間は、該当者なしのため５年ぶりの授賞式となりました。受賞したのは、遠藤隆也氏（83歳）です。

遠藤氏は、家庭裁判所の調停委員を平成２年～18年まで務められ、多くの困難な事案についても、広い見識と誠実な人柄をもって円滑に解決を図り、明るい社会づくりに貢献されました。また、平成６年～20年までの14年間、網走ポートアルバーニ姉妹都市交流協会の会長を務められ、両市の相互交流を深めるため、少年少女訪問団の派遣を行い、これまで６００名の子どもたちの教育交流を推進してきました。他にも多くの要職を務められ、これらの活動が認められ、今回の網走市文化賞の受賞となりました。

今後とも健康にご留意いただき、いつまでも元気でお過ごしくださるよう願っています。

荷ちゃんが駆ける

今朝、起きると雨が降っており、毎週の定時定点の宣伝をどうするか考えた。大学入試英語民間試験の実施を延期するとのニュースの事を話した。家庭の経済力や居住地によって格差が生じると現役の高校生や教育関係者が中止を求めて声をあげ、野党は延期法案を提出していた。

「身の丈に合わせて頑張って」と発言した萩生田文科相は国民の暮らしを見ず、無視する安倍政権の一つの象徴だ。高１の女子生徒は延期のことが学校で話題になり、「今まで声を上げも変わらないと思っていた。でも、この問題を通じて声をあげる人がいるから変わるんだと思えた」と集会で発言したことを市民に伝えた。みぞれが落ちる寒い中での宣伝だったが、やりがいを感じた。

今日の桂陽高校生との交流で「網走が都会のように良くなれば選挙に行くようになるのでは」との意見はそのとおりだと思った。

流氷

全国生活と健康を守る会連合会（全生連）では「生活費非課税」の要求として①消費税は廃止を目指し５％へ②住民税・所得税・国保料は４人世帯で年間３５０万円までかけないこと③教育費は無償に、公営住宅や社会保険料は大幅に引き下げること④住民税・所得税・固定資産税などは生活費に課税しない水準で減免基準をつくることの４点で税運動に取り組んでいます。▼北見生活と健康を守る会でも税学習や社会福祉破壊税になっている実態に〝怒り〟を〝あきらめない勇気〟にして相談活動を進めています。▼この網走でも「医療費や介護利用料が高くて大変だ」、「寝たきり酸素治療で症状が固定しているので退院し在宅を迫られている」、「65才過ぎで障がい者総合支援法から介護保険制度への移行となる」など多岐に渡る相談が寄せられています。その都度、全生連が発行している「暮らしに役立つ制度のあらまし」を読みながら説明しています。私自身も勉強し、お互いに手を取り合って悪政に立ち向かう努力をしています。

北見生活と健康を守る会
副会長　神田優